

IMSH 2023

R e p o r t

京都科学は1月22～24日にフロリダのオーランドにて開催されたIMSHに出展いたしました！その模様をレポートします。

会場

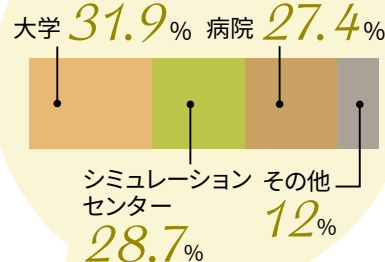
Florida, Orlando

オレンジカウンティ
コンベンションセンター

来場者

62 カ国
4,173 人
過去最高

来場者の所属



What is IMSH2023?

IMSH (The International Meeting on Simulation in Healthcare) は、ヘルスケア分野におけるシミュレーションをテーマにした世界最大の学会です。

23年目の今回のテーマは「A Standard of Excellence (優秀の基準)」。

新型コロナウイルスの世界的な流行から3年。

他学会同様オンラインとのハイブリット開催が続いたIMSHも

久しぶりに大々的な対面開催となりました。

学会発表

250+

学会フロア

26,709 m²
サッカーコート3.7面分

企業展示

133 社



展示会場Report

毎回華やかな演出で展示会場へも来場者が足を運ぶ工夫がされるIMSH。今回もオープニングセレモニーでサンバダンサーのショーが始まったり、展示会場にバーが設置され、ワインを片手にブースを回れる夕方のイベントがあったりと、来場者を楽しませる仕掛けが多く見られました。展示で度々出たキーワードは没入感。VR仮想空間でケアを行うシミュレータや、肌の質感や表情まで見た目のリアリティを追求したモデルがトレンドとなっていました。アメリカなどのシミュレーションセンターでは、患者の人格を感じさせるためにシミュレータにタトゥーやピアス、かつらをつけて、個性を出すなんてこともするそうです。展示でもう1つ目立ったのは外傷ケア関連の展示。銃創のある患者が目の前に運び込まれたら？仲間の足が吹き飛ばされたら？大規模な戦場を模したブースや目を覆いたくなるような外傷模型が並ぶのを目の当たりにして、世界情勢がヘルスケアに与える影響を感じました。



京都科学ブース

京都科学では今回20のシミュレータと7つの超音波ファントムを展示しました。中でも、経腹/経膈で異所性妊娠や婦人科特有の病変が描出できる婦人科超音波ファントムや、肩甲難産や吸引分娩まで再現できる分娩シミュレータアドバンスドは注目の的。また、実際の患者から年月をかけて録音した症例音の数々や、“細かすぎて伝わらない”ようなところまでこだわって手技の再現性を高めるものづくりの姿勢を、高く評価いただきました。

京都科学の展示物

Simulators

呼吸音聴診シミュレータ“ラングII” / 呼吸音聴診シミュレータ“小児ラング” / フィジカルアセスメントモデル“Physiko” / CVC穿刺挿入シミュレータII / 腹部アセスメントモデルダイバーシティモデル / 分娩シミュレータアドバンスド ほか

Phantoms

婦人科超音波診断ファントム / 胎児超音波診断ファントム“SPACE FAN-ST” / 小児超音波診断ファントム 腹部外傷・急性病変モデル / 下肢静脈エコーファントム / マルチモダリティ診断ファントム 上腹部モデル ほか

